

発刊によせて

山梨県知事望月孝明



下部町は、古くから信玄公のかくし湯、木喰上人の生誕の地として全国に知られております。

下部鉱泉は、景行天皇の御代に発見されたといわれておりますし、湯之奥や川尻の金山が大変栄えたとも伝えられております。

このように歴史と伝統のある下部町は、東に本栖湖を有し、蛾ヶ岳、釈迦ヶ岳、龍ヶ岳、雨ヶ岳、毛無山等を水源とする溪流に恵まれた大自然の中に、多くの先人のたゆまぬ努力によって築かれた素晴らしい町であります。

下部町は、多様化した社会ニーズに呼応し、美しい溪流を活用してヤマメの里振興センターを中心とする新しい事業を進めておりますし、下部温泉郷、多くの文化財、豊かな山林等の誇り得る観光資源を積極的に活用した施策が展開され、将来の発展が大いに期待されているところであります。

現在は、「地方の時代」という言葉に象徴されるように、我々の知恵と努力により人間性豊かで個性のある郷土づくりが求められております。

このように新しい時代が展開されているとき、立派な町誌が発刊されたことは、先人の歩んできた足跡を後世に伝えるとともに町の将来を展望するためにも重要な意味をもつものと思えます。

私が県政の基本方針の一つに「ふるさとづくり県民運動」を置いたのも単なる懐古的な考えからではなく、今その地に生きる人々と次代を担う人々々が尊い祖先の残してくれた郷土に誇りと愛情をもって、活力ある地域づくりに積

極的に参加していただきたいと念じたからであります。

「下部町誌」の発刊にあたり、関係各位の御努力に対し心から敬意を表するとともに、この町誌が広く活用され、下部町が益々発展されることを心から念願するものであります。

昭和五十六年五月

発刊にあたって

下部町長 小林 最将



昭和三十一年九月三十日、久那土村・古関村・下部町及び共和村の一町三か村が合併して、新下部町が誕生いたしました。時あたかも経済の大変動と民主日本の建設を志向する激動のさなかにおいて、新町の建設という使命観に燃えて、渾身の力を結集下された町民各位の努力によって生々発展し、今ここに、光輝ある二十五周年を迎え感慨ひとしおなるものを感じます。中途、下田原及び宮木の両地区が分町したことも、生活圈を考慮するならばやむを得ないことと思いません。

本町は東に富士箱根国立公園を望み、西は甲斐の文化向上を支えた富士川をかぎり、北は蛾ヶ岳の山頂から、南は毛無山に連なる分水嶺の県境に至る広大な地域で、面積は一三〇・七六平方キロ、人口七千八百余人を擁する町であります。

町名「下部」は、千余年の歴史と「信玄公のかくし湯」で知られる下部温泉に由来するものであります。

本町は、発足以来各位のたゆまぬ努力によって、各方面に幅広く飛躍してまいりました。もとよりこれは、遠い祖先から営々として築き継がれてきた先人の偉業でもあります。よって、これら町内の史実や沿革・生活文化などに十分な資料をあて、あらゆる角度から究明して未来への発展・飛躍の糧ともすべく、また下部町発足二十五周年記念事業の一環として、町民の要望に応えるために、町誌の編さんを企図いたしました。このことは貴い資料や民具など、年々いん滅離散して取りかえしのつかない事態の到来など、これにして思えば誠に時宜を得た事業であって、心から喜ぶべきことだと思えます。

町誌編さんに着手して以来、四年有余の歳月と各位の願いがようやく実り、ここに待望久しかった本誌の発刊をみるに至ったことは喜びに耐えません。

ご指導、ご協力を願いました諸先生、町誌編さん審議会委員、編集委員をはじめ、貴重な資料を快く提供下された町民各位に、深く感謝の意を表する次第であります。

この町誌が、町民及び本町に関心をもたれる各位の座右の書として広く愛読され、郷土への理解と認識が深められ、さらには人々の道標ともなって広く活用され、永く後世に残ることを期待して発刊のことばといたします。

昭和五十六年五月